

窓辺

医は仁術なり

毛利 博

「医は仁術」という言葉を私は大切にしています。医師の仕事は、病気を治すだけでなく、全人的な視野が求められています。45年前に聖路加国際病院で医師の仕事を始めました。当時は、当直でレントゲン検査以外何もできず、患者さんの病歴と自分の五感だけを頼りに診察しました。現在とは隔世の感があります。上司からは、患者さんが診察室に入った時から診療が始まっていると、厳しく教えられました。

「外來診療3分、待ち時間3時間」と言われて久しく、医師は予約枠以上の人数を入れて診療し患者さんは待つのが当たり前、という発想を転換することが大切です。一方、患者さんは賢く病院を利用する

ために、かかりつけ医を持つていただきたい。大病院志向を改めて、病診連携を有効に活用すれば、待ち時間の解消にもなるかもしれません。疑問点は主治医と相談しセカンドオピニオンなどを利用して、病気を理解し納得することが大切です。疑念を晴らすため医師に質問することに躊躇する必要はありません。医療は日々進歩し、昔は治せなかった病気も治せるようになってきました。患者さんと医師との信頼関係ができてこそ、医療は始まると思います。

（県病院協会 会長）
藤枝市病院事業管理者